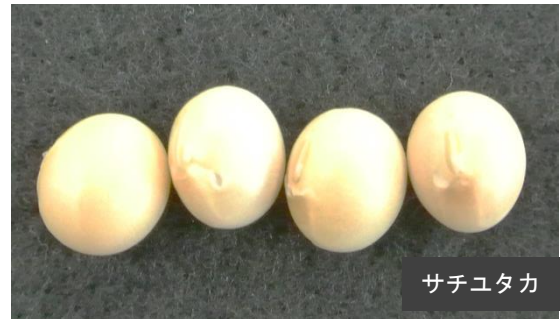


# 大豆品種「サチユタカ<sup>エイチゴウ</sup>A1号」の概要

## 1 育成経過

- ① 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 作物研究部門（旧：次世代作物開発研究センター）において、「サチユタカ」を母、難裂<sup>なんれつ</sup>莢<sup>さや</sup>性<sup>きょうせい</sup>（莢がはじけにくい）を持つ「ハヤヒカリ」を父とした交配を行い、その後、5回の戻し交雑によって育成された品種である（平成26年度に品種登録）。
- ② 難裂莢性を有すること以外、栽培特性や加工適性は「サチユタカ」と同じである。



（写真左：成熟期の株、写真右：子実）

## 2 現奨励品種「サチユタカ」と比較した特徴

- ① 開花期、成熟期はほぼ同等（表1）。
- ② 収量やその他の栽培特性はほぼ同等（表1）。
- ③ 外観品質や子実成分はほぼ同等だが、粗蛋白質含有率がわずかに低い（表1）。
- ④ 裂莢率が低く、成熟期から日数が経過しても裂莢数が増加しない（図1）。
- ⑤ コンバインによる収穫ロスが少ない（表2）。

表1 「サチユタカA1号」の栽培特性 (奨励品種決定調査3ヶ年(平成29年～令和元年産)平均)

品種	開花期 月/日	成熟期 月/日	収量 kg/10a	主茎長 cm	主茎節数	分枝数 本/株
サチユタカA1号	8/1	11/2	372	51.0	14.0	4.9
サチユタカ	8/1	11/1	373	52.3	13.9	5.2

品種	莢数 莢/株	百粒重 g	外観品質 1-7	粗蛋白質 %	粗脂肪 %	全糖 %
サチユタカA1号	68.4	35.9	4.7	44.9	20.0	21.4
サチユタカ	67.6	35.6	4.0	46.4	19.2	21.3

(注) 1. 山口県農林総合技術センター(山口市大内氷上)における6月15日播種での調査結果。  
 2. 収量は7.3mmで篩選し、著しい病虫害粒(奇形、変形粒)を除いた。  
 3. 外観品質は大豆調査基準に従い、1(上の上)～7(下)の7段階で評価した。

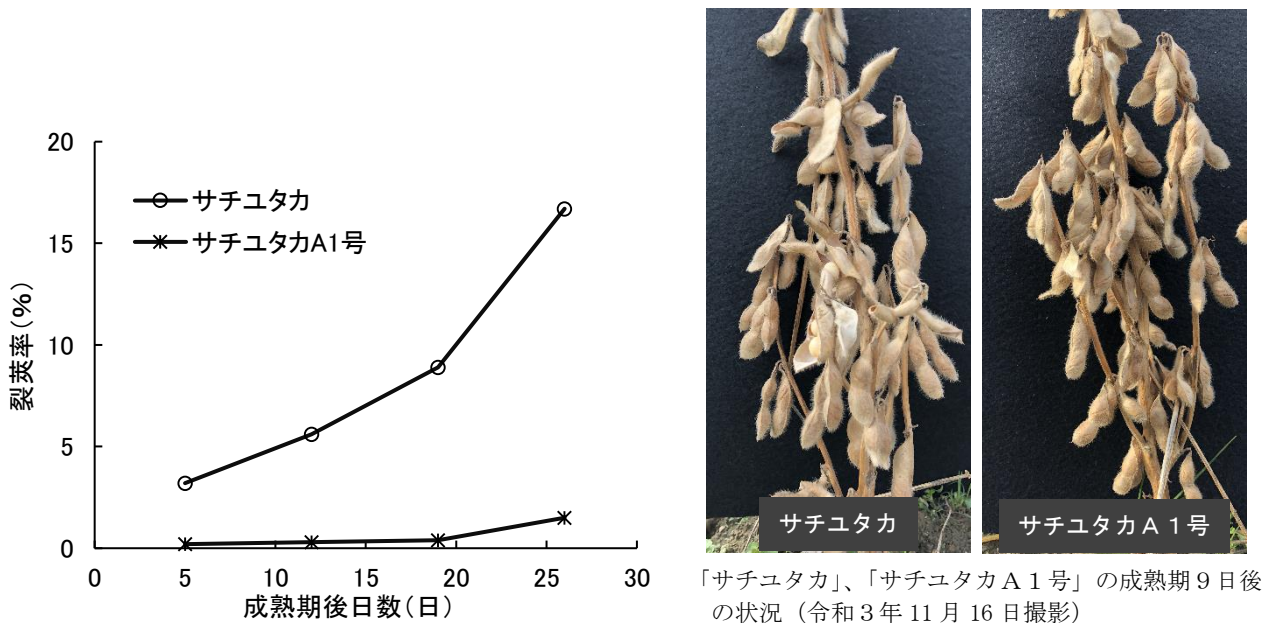


図1 「サチユタカA1号」の裂莢性(令和元年産)

(注) 1. 山口県農林総合技術センター(山口市大内氷上)における6月15日播種での調査結果。  
 2. 裂莢率は1区10株を3反復調査し、裂莢数を総莢数で除して求めた。  
 3. 成熟期は10月28日。

表2 「サチユタカA1号」のコンバイン収穫による損失率(令和元年産)

品種	損失率		
	自然裂莢 %	収穫時 %	合計 %
サチユタカA1号	0.1	4.0	4.1
サチユタカ	2.4	8.8	11.2

(注) 1. 山口県農林総合技術センター(山口市大内氷上)における7月8日播種での調査結果。  
 2. 成熟期は10月30日、調査日は11月16日(成熟期後17日)。  
 3. 収穫時損失率はヘッドロスと排出ロスを合わせた値。

### 3 奨励品種決定の理由

以下の点から、「サチユタカ」からの切り替えによって県産大豆の増産と生産の安定化が期待でき、生産者の経営安定や実需者への安定供給につながると判断できる。

- ① 現奨励品種「サチユタカ」と比較すると、栽培特性・収量・外観品質は同等である。
- ② 成熟期以降の裂莢が「サチユタカ」より明らかに少ないため、自然裂莢や収穫ロスを減らすことができ、実質収量の向上が期待できる。
- ③ 加工適性は「サチユタカ」と同等であり、従来通りの取扱いが可能と見込まれる。

### 4 今後の展開

令和4年度から種子生産を開始し、令和5年度に「サチユタカ」から「サチユタカA1号」への全面切り替えを行う。